

第 13 回 ワークショップで学ぶ人工呼吸セミナー 1 日目振り返り

2017 年 9 月 2 日 (土) 18:00~19:30

●人工呼吸器モード講義・体験実習について

- ・同調性に関しての設定で E sence・立ち上がりには触れていない。トリガーという項目も講義でふれる必要があるのか。臨床でトリガーという項目が問題になることは稀。今後検討が必要。
- ・サギング・2 段呼吸は非同調として体験で少しふれ、グラフィックの講義への布石にする。

●人工呼吸器初期設定・ARDS 講義・症例について

- ・肺メカニクス講義①の後の実習について、気道抵抗は設定流量・換気量によって数値が変化する。それを今後講義や実習にいられていく必要があるか。今後検討が必要。
 - ・今回変更した実習・講義の流れは変更せず現行のままとする。肺メカニクス②の講義の立位で。肺メカニクス③の講義は座位で実施。
 - ・講義②と③の間の V C V の矩形派での肺メカニクス測定は時間があまっていた。変更はせず次回の検討事項とする。
 - ・講義③は時間がオーバーしてしまった。〇〇先生にて再度確認していただく。
 - ・V C V の初期設定の最初の段階ですわったまま設定を決めてから呼吸器の前に移動するのはどうか？
- グループによって資料をみながら設定を考えるグループと、画面をみながらでも問題なく設定できるグループとに分かれている。そのためインストラクターが受講生の様子を見て調整をする。実習を立位のまま始めるのは現状のままとする。
- 理想体重・換気量の表はラミネートして受講生に提示するとページをめくるのを省けるため実施してみる。
- ・初期設定で全グループ一回換気量 300ml となった。間違いではないが、講義で 6 ml/kg を強調しすぎないようにする。

●実習全体について

- ・残り時間をプロジェクターで映してインストラクターが自由にみれるようにしていたことで残り時間をインストラクターが確認したいタイミングで行うことができた。今後も継続。プロジェクターの位置などは今後検討。
- ・今後はインストラクターが自分で時間のマネジメントを行えるようにしていく。

決定事項

- ① サギング・2段呼吸は体験実習で非同調として扱い、翌日のグラフィックの講義への布石にする。
- ② 肺メカニクス講義②は立位。講義③は座位。インストラクターマニュアルに加える。
- ③ 実習中の時間管理をインストラクターが自分で行えるような方向性にする。
- ④ 理想体重・換気量の表をラミネートし提示する。

今後の課題・要検討事項

- ① 人工呼吸器のしくみ・モードの講義の中でトリガーにどの程度触れるか。体験実習での必要性
- ② VCV で流量・換気量が変わることによって R が変化すること。PCV で流量波形が 0 に戻らないとプラトー圧の測定値に影響を与えることを伝えるか。
- ③ 症例 1 の肺メカニクス講義②と③の間の実習の時間管理について
- ④ 初期設定講義での一回換気量の伝え方（〇〇先生）
- ⑤ 肺メカニクス講義③の時間管理（〇〇先生）

以上